

学校だより

11月号

港区立白金小学校

発行人 吉野 達雄

令和二年十月三十一日



落ち着きがあり、活気のある学校を目指して

校長 吉野 達雄

今年度、学年ごとに実施している体育学習発表会は、短距離走と表現活動の二つですが、児童が司会進行をする開会式・閉会式を行うことで運動会の雰囲気味わうことができています。どの学年も例年の運動会のように練習から本番まで意欲的に楽しく取り組んでいます。先日行いました五年生のソーラン節は本校の伝統的な種目で、今年の子供たちも黒で統一された衣装を身にまとい、見事に踊り上げました。

保護者会・学校公開も密をさける取組に協力していただきありがとうございます。児童にとっては、いつもより長い四日間の公開日でしたが、どの学級もしっかり前向きに学習に取り組めていました。特に六年生は最高学年らしく、どの授業でも落ち着きながらも積極的に発言する場面が多くなりました。学校全体が落ち着いてきているのも、「白金スタンダード」(学習や生活についてのきまり)を教員も児童も意識し徹底できているからだと思います。

【子供たちをしっかり見つめ、理解することの大切さ】

昨年度の学校だよりで、「子供たちは、学校で見せる顔と家庭で見せる顔は違う」と書かせていただきました。このことをどう理解し、子供たちの課題をどう把握していくかが子育てでは大切です。白金の子供たちは本当にかわいいです。みんな健全にたくましく成長してほしいです。しかし、子供たちは、まだまだ未熟でたくさんのお話を聞かれます。そんな時は、大人がしっかり教え、時には叱り、一緒に考えていってあげたいです。私たち白金小の教職員は、子供たちをしっかり見つめ、理解し、そして温かくも厳しい指導で健全育成に努めてまいります。保護者の皆様のご理解ご協力をお願いいたします。

【心の距離はかわらないよ】

これは、保健室の前にある言葉です。コロナ禍においては、ソーシャルディスタンスを取らなくてははいけません。友達と距離をとってもかかわりが希薄になるわけではないよ、心はつながっているんだよ、という意味です。心に残るいい言葉ですね。大変な時期ですが、このような気持ちで皆がつながり、今を乗り越えましょう。

【交通安全を考える】

① 家庭で話し合っしてほしい交通安全についての事例を二つ紹介します。

② 青信号の横断歩道上での事故

青信号だけを信じず、自分の目で「右ひだり右」の安全を確認してから渡りましょう。

③ 走っていた勢いで、自ら自動車にぶつかってしまった事故

友達と遊びながらの通行(追いかっこ)、飛び出しなどに気を付けましょう。

「いじめは絶対に許さない」ふれあい(いじめ防止強化)月間

生活指導主任 藪田 真澄

東京都教育委員会は、「心の東京革命」教育推進の一環として、六月、十一月、二月を「ふれあい月間(いじめ防止強化月間)」として定めています。ねらいは次の二点です。

① 児童一人一人が自ら進んで、友達や他学年の児童に対して思いやりのある言動がとれるようにすること

② 学級・学年・学校の一員としての自覚を高め、健全で豊かな心を育むこと

本校では、毎年、学校関係者アンケート(学校評価)を実施しています。その中で保護者の方から取組が「よく分からない」と声をいただいたものが「いじめへの取組」です。そこで、保護者会等でもお話させていただきました。

ふれあい月間のいじめ防止の取組について、六月には、新型コロナウイルス感染症に関するいじめを防止する目的で動画を作成し、全学級で発達段階に応じて指導を行いました。また、未然にいじめを防ぐために毎月アンケートを実施しています。

今月(十一月)は、

① 担任以外の教員がアンケートを取ります。さらに、悩みなどの相談がある場合には、自分が話をしたい先生を選び、SOSを発信しやすいようにします。

② 四年生以上は、ハイパーQも実施します。

③ 自身の行動を振り返り、相手の気持ちを考えられるようにします。

いじめは、どの学校、どの学級にも起こりうるという高い危機意識を教員がもち、児童がよりよい学校生活を送ることができるよう、引き続き身を引き締めて指導していきたいと思ひます。